

日刊 動労千葉

86. 7. 29

No. 2305

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

今こそ総反撃へ —国鉄労働運動の課題と任務—



7.20集会・中野委員長講演(要旨)

国労を解体し、職制が牛耳る

「組合」づくりが狙い

七月になってから情勢が急ピッチに展開した。自民圧勝・社会惨敗・国鉄改革を推進する職員の集い、人材活用センターの設置、動労・鉄労の全国大会、四組合国鉄改革推進協議会、そして動労総評脱退宣言、この各々が重要な問題をはらんでいる。国鉄分割・民営化攻撃の本質と、敵が何を狙っているのかということについてはつきりしている。

この構造は、来年四月、そのとき労働組合はどうなるのかということだ。鉄労・動労は、一企業一組合といひ、当局は全国で無数の職制・非現業のグループをつくっている。現在の労働組合すべてを解体し、新しい組合をつくる。そこで誰が主導権をとるのか。当局は職制グループ、大学卒の学士を主力にすえた労働組合でやろうとしている。かつて戦間的労働組合だった民間の多くの労働組合が会社の下請け機関みたいな労働組合と化してしまった。日産自動車等、塩路が中心となって大卒の職場長や係長とかの職制が資本の意をうけて労働組合を牛耳り動かしてきた。塩路もこの連中に追い落された。このスタイルの労働組合運動を目指しているのだ。

いったん道を誤ると、結局は当局のドレイに

いま動労・松崎が国鉄改革のためにありとあらゆることをやるといつてい

る。

国鉄総裁・杉浦は、この松崎をありつたけの歯の浮くようなほめ言葉を使って絶賛した。極めて密月関係にあるかのようなだが、動労革マル集団をパートナーとして当局はやっていくのか!? 彼らは利用され捨てられる。だから松崎は資本に忠誠を誓うためのありとあらゆることをやっている。そしていま、総評を脱退するとまで言っている。

総評―県評―地区労という関係で支部段階は混乱するがあえてやった。さまざまやってきてもう打つ手がない。国労を徹底的に解体する方針以外に……。しかし、動労大会でも質問がでた。本当に動労の組合員全員が新会社になれるのか、貨物会社はどうなるんだとか。全国で一万六千人も運転関係に、余剰人員がいる。そこで当局と動労はいま何をやっているかというど訳の判らない転換教育をやっている。矛盾に矛盾を重ねている。国鉄労働運動を解体し、労使協調の労組にかえていく。そのためあらゆる手段をつかってくる。その上で当局がいつまで面倒をみてくれるかと松崎は不安でしようがない。いったん道をあやまるとどこへ行くのか、結局は権力の意のままにおどらされ、組合員はいい面の皮だ。

攻撃の嵐の中で国労の旗を守って闘っている組合員

再建監理委の答申から一年たった。この一年間の中で特徴的なことの一つは、分割・民営攻撃とは改革ではなく国鉄を解体し、国鉄労働運動をつぶす、そのために十万労働者の首を切るこれが本質である。二つめは、中曽根・杉浦の攻撃に処分され勤務不良といつて昇給をけとばされ、夏季手当で差別つけられるなど、はじかれながらも断固として頑張っている国鉄労働者の闘いの一年だった。

国鉄労働者は本当に正しい方針と指導を確立するなら、分割・民営攻撃に對して大きな反撃を加えることが可能なんだということを示してきた一年で

もあった。

本日は、沢山の国労組合員がいます。何の方針も出されず、国労にいれば首だといわれながら組合費を払って国労にのこつて国労の旗を守っている。奇跡とも思えるほどの頑張りが、今なら現場にはまだある。このことが核心だ。

「展望」は闘いの中で きりひらくもの

動労千葉は、二波のストをやり処分をうけた。闘いの貫徹のため物資販売・全国上映運動もやっている。全国あらゆる労組・国労職場に入つて一年前は全く違う現象が起きている。動労千葉の話もぜひ聞きたい。つまり、いま国鉄労働者は本当に闘う方針を求めている。そのためにはいろんな人の意見、話を聞き、そして 闘おうと思う人はみんな手をつながなきゃいけないということが広範に起つてきている。そういう人達とともに私達は分割・民営阻止へ今日を起点に新たな決意ですすめていきたい。

私は、職場の組合員や家族等から「展望はどうなんだ?」とよく質問される。しかし、「あらかじめの展望」などないと答えます。真の「展望」というものは、闘うことによつてしかひらけない。中曽根・杉浦・動労松崎、等に展望があるのか? 無いのだ。どうなるかみんなわからない中で、闘っているのだ。それぞれの階級利害をかけて激突しており、食うか食われるかの闘いで、闘ってはじめて展望が得られる。

今夏、秋全国から総反撃にたとう

こういう状況の中で 動労革マルや真国労のような裏切り者を粉碎・一掃して全国の国鉄労働者が「分割・民営絶対阻止、労使共同宣言拒否、全国ゼネストで総反撃」を合言葉に闘う統一戦線をかちとつていけば必ず勝利できる。本当に闘う国鉄労働者の総決起を実現しなくてはならない。

(講演速記録より要旨再現・文責編集部)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!